

評価対象課題の研究内容と評価結果（概要）

研 究 課 題	3	化学物質による環境リスクの把握・低減化に向けた各種スクリーニング分析法の開発と応用（R5-7）
研究目的・背景	化学物質による潜在的な環境リスクを包括的に把握するため、高分解能 LC-MS 用 AIQS-DB（アイクスデータベース）の拡充や、サスペクトスクリーニング及びノンターゲット分析による未知物質の検索など、より幅広い化学物質網羅分析法の確立を目指すもの。	
研究内容	高分解能 LC-MS（SCIEX X500R QTOFMS）を用いた AIQS-DB（Negative）の構築を目標として、装置測定条件等を検討し、標準物質や環境試料を測定する。得られたデータを用い、化学物質情報を DB へ登録するとともに、サスペクトやノンターゲット等の各種スクリーニング法で環境試料から高頻度、高濃度で検出される物質を検索し、DB に収載すべき物質の情報を得る。	
評価結果	<p>○総合評価 A（5人）・B（1人）・C（0人）・D（1人）</p> <p>○総合意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの他機関との共同研究を行っており、県内外で重要な研究課題と位置づけられる。 ・重要な研究であり、積極的に推進すべき課題と認める。 ・化学物質による潜在的な環境リスクに対応するためには網羅的なモニタリングが必須であり、その手法確立に向けた重要な研究と認める。 ・化学物質を検出した場合にあつて、的確な参照データベース（DB）がないと正しい判断ができない。本課題の目標は今後普及するであろう AIQS 法の DB 開発であることから今実施すべき課題と思われる。 ・共同研究機関と連携し、効率的に新しい分析法の開発を進めることを期待します。 	
センターの対応方針	<p>1 研究計画のとおり実施 2 一部見直しの上実施</p> <p>3 今後再検討 （計画再考） 4 実施しない （中止）</p> <p>本研究は、迅速で網羅的な化学物質のスクリーニング手法を構築するものであり、同手法を環境モニタリングや環境事故等緊急時の環境調査（環境影響、原因究明）に活用することが、県民の健康と環境保全の為に必要である。</p>	

※ 記載欄は適宜調整（拡縮）してください。